2025 年度日本老年看護学会 教育活動推進委員会企画
情報交換会「老年看護学実習について話そう」報告

1. 企画意図

2020 年度の第 5 次指定規則の改正やコロナ禍を経て、「老年看護学」の臨地実習の運営は多様化している。老年看護学実習では、隣接領域との統合実習、さらには、急性期・療養型・回復期・地域包括ケア病棟、介護老人保健施設・介護老人福祉施設・通所サービスなど様々な施設で実習目標や学年に応じた指導方法が工夫されている。本情報交換会では、各教育機関の老年看護学実習において、どのような実習目標を設定し、実習方法の工夫を行っているのかについて情報交換を行い、より良い老年看護学実習のあり方を検討することを目的とする。

2. テーマ：老年看護学実習について話そう

3. 開催日時：2025 年 8 月 7 日（木）18：00～19：30

4. 開催方法：オンライン（Zoom）

5. プログラム

18：00～18：05 オリエンテーション

開会挨拶 教育活動推進委員会委員長 鈴木みずえ

18：05～18：50 話題提供（1 人 15 分）

① 3 年次に行う 2 つの老年看護学実習 札幌医科大学 長谷川真澄

② 3 年次と 4 年次に行う 2 つの老年看護学実習 上智大学 坂井志麻

③ 青年期から老年期を対象とした成熟期看護学実習 岐阜県立大学 古川直美

18：50～19：15 グループセッションで情報交換（25 分）

19：15～19：30 グループで話した内容を全体で共有（15 分）

19：30 閉会

6. 申込者数：62 人 当日参加者数：55 人 アンケート回収数：46 人（回収率 83.6%）

7. 参加者アンケートの結果

1) 回答者の属性

(1) 会員の有無

	人数	%
会員	38	82.6
非会員	8	17.4

(2) 職種

	人数	%
教員	42	91.3
臨床看護師	4	8.7

2) 話題提供の評価

(1) 話題提供の内容の満足度

	人数	%
とても満足できた	26	56.5
まあ満足できた	18	39.1
あまり満足できなかった	1	2.2
満足できなかった	1	2.2

(2) 今後の自施設の実習運営への活用

	人数	%
とても活かせる	16	34.8
まあ活かせる	26	56.5
あまり活かさない	4	8.7
活かさない	0	0.0

(3) 具体的な活かせる/活かせないと思う点（主な記載を抜粋） n=30

【活かせると思う点】

- 他の学校の実習への取り組み、工夫を知ることができ、視野が広がった。取り入れられるところは取り入れたい。(9)
- 現在、カリキュラムの見直し、実習形態を検討しているため、参考にしていきたい。(5)
- 他領域と連携して新しい実習を検討したいと思いました。
- 中間面接・課題への到達を取り入れられている学校が多いのだとおもい、活かしたいとおもいました。
- 他の方の発表を聞いて、ちゃんとカリキュラム全体を把握しようと思えた（忙しすぎて目の前のことをこなして全体を十分把握できていませんでした）。
- 実習の目的とその過程についてしり、今後の実習の目標などを考え授業とつなげていくために参考になると思いました。
- 高齢者の「その人を知る」という視点を、イラストの周囲に項目化したものが、学生にも伝わりやすいと感じました。講義や実習でも取り入れていきたいと考えています。(3)
- 学生の意見と患者さんの療養をいい形にできるようサポートしていくことが必要だと思いました。

【あまり活かせないと思う点】

- 様々な講義・実習の方法について共有していただきましたが、残念ながら時間が短く、実習運営に活かすためには、より詳細な情報が必要だと思いました。(2)
- カリキュラム的なことが多かったので、「そうなんだな」という感想のみで終わってしまいました。ローテーションの実習が多い中で、段階に合わせてどのように指導をおこなっているのか、実習施設とはどのような調整をされているのかをもう少し知りたかったです。

3) グループディスカッションの評価

(1) グループディスカッションの満足度

	人数	%
とても満足できた	9	19.6
まあ満足できた	28	60.9
あまり満足できなかった	8	17.4
満足できなかった	1	2.2

(2) 今後の自施設の実習運営への活用

	人数	%
とても活かせる	10	21.7
まあ活かせる	28	60.9
あまり活かせない	7	15.2
活かせない	1	2.2

(3) 具体的な活かせる/活かせないと思う点（主な記載を抜粋） n=30

【活かせると思う点】

- 老年看護学を教授する上で、高齢者の強み、ニードなどへの着目、目標志向型思考を大事にしていることがわかった。(5)
- 他の学校の取り組みを知ることができ、活かせることは生かしたいと思いました。(2)
- どの学校でも自分たちが学生たちに対し指導する際に困っていること、高齢者に実施して満足で終わってしまうことなど学生に対する指導方法や何を意識すべきなのか改めて考える機会となった。(2)
- 学生が主体的に学べるように、意図的に指導してゆくことが重要と思いました。
- 患者さんの療養生活にプラスになるよう、学生の学びの応援となれるよう教員と情報共有し学生との時間を作れるようにしていく
- 生活と目標志向を意識するために、病院での実習の際には、退院間近の人を受け持たせてもらうこと。
- 実習単位は決まっているので量を変えることは難しいですが、教授方法やスケジュール、

演習内容への手がかりとなりました。(2)

- 現場指導者の方が実習後の患者さんの様子をフィードバックして下さるという点。実習指導者と密に連携をとる点。(2)
- 学生のケアを患者さんの今後に活かせるように病棟でも話し合いをしていく
- マンパワーの不足をどうやって解消するか

【あまり活かせないと思う点】

- 話し合いの時間が足りず、今後に活かせるところまでたどり着きませんでした。(9)
- 時間が短すぎます。情報共有とはいえ、もう少しテーマを絞ったり、ディスカッションを中心としたらいかがでしょうか。
- 臨床側での参加であったので先生方の紹介と視点が違う部分もあったので活かしづらいとは思いました。また学生がコミュニケーションが難しいといった話もでしたが、学生によって個性があるのですべてが同意とはおもえなかったからです。
- まわりにどのような病院や施設があるかで、実習の組み立て方が違ってくるのかなと感じた。

4) 今回の企画に関する意見・感想（主な記載を抜粋） n=42

【意見・感想】

- 様々な施設での実習の取り組み、工夫、課題を知ることができてよかった。(4)
- 今までには臨床勤務の看護師向けのもが多かったのですが、今回看護教員を対象にして学校のカリキュラムは様々で先生方の思いを感じられ、今後のモチベーションアップになった。(3)
- 教授方法やカリキュラムに悩んでいたのが、今回の企画はとてもいいタイミングだった。
- グループディスカッションは、臨床で指導して下さる方が一緒だったのはとても良かったです。
- 夜間のため、終了時刻は適当だと感じました。
- グループから抜け出してしまった際のご対応、ありがとうございました。

【課題・提案】

- グループワークの時間がもう少しあると議論が深められたと思いました。(14)
- 時間配分によって、話し合う焦点を決めて進行していただければ活用できる内容をお聞きできるのではないかと思います。
- 最初に司会は決めたが、発表者を決めていなかったのが、決めておくとスムーズだったかもしれない。自己紹介で何を話すかと、話し合うテーマが明確だとよかったかもしれない。
- 時間は厳守してほしい。
- 話題提供の資料を事前にいただけていたら、もっと理解が深まったと思いました。
- 臨床の方も参加していたので、臨床指導者側の講義もあるとよかったです。(2)
- グループに分けるときに、立場が同じ方（指導者・教員など）でまずはグループを構成したり、話したいテーマ別にグループを組むと短い時間でも話が深まりそうだった。

【今後の企画】

- また実習の企画をお願いしたいです。(6)
- この企画の続き、実習形態や方法をどう変更、バージョンアップしたかなどのプロセスなども共有できたらと思います。
- 参加の先生方の実習施設や単位など基本情報を集計していただき、老年看護学実習のあり方、今後の進め方の指針などをしていただけると助かります。
- 老年看護学で何を大切にしていったらよいかなどの議論も面白いと感じました。

5) 今後の教育活動推進委員会への期待、希望する企画テーマ（主な記載を抜粋） n=23

- モデルコアカリの内容踏まえたカリキュラムの組み立てや学生に教授する際に工夫していることディスカッション多めで実施があるとうれしいです。(4)
- 今回と同様のテーマで、病院実習バージョン、高齢者施設実習バージョンで他大学の取り組みを共有する場があるといいなと思いました。
- 本日のグループワークから、実習施設の教育担当者や実習指導者と、学校側の教員とのグループワークができるとよいと感じた。
- 実習や演習の評価について、授業の組み立てについてなど。
- 高齢者に興味を持ってない学生や、高齢者との関わりが表層的であったり、対象理解が進まない学生に対し、どのように関わればよいのか。先生方の実践などを聞きたい。
- 倫理的課題に対する学びの深め方など、みなさんにきいてみたいと思った。
- 臨床から離れており、教員向けの勉強会やセミナーが少ないので、ぜひこのような機会をたくさん作って頂きたいです。大学教員の先生方が多かったのですが、専門学校の教員ともぜひつながりたいです。
- 実習だけではなく、授業の展開についても教えてほしいです。
- 対象者のアセスメントに使用している枠組について、学内ではどのような演習をしているのか、情報共有したいです
- 老年看護で大切にしたいこと。老年看護の看護過程とは？
- GCNS の教育課程における実習について、相談する人がなかなかいないため、今回のような機会があれば大変ありがたいです。
- 「この人にどんな時間を過ごしてもらいたいのか」介護者やケアの専門家が時に感じる負担感を共有して一緒に方向性を考えられるようなかわりについて。
- 学術集会の中でも行えるとよいと思った。
- キーワードの QR コードが読み込めなかったのでチャットに貼っていただけるとよいと思いました。

8. 評価

1) 参加者の特性

参加申込者数は 62 名であったが、当日 55 名(88.7%)が参加した。参加者は教員 49 名(89.1%) 臨床看護師 6 名(10.9%) で教員がほとんどであったが、臨床指導を行う看護師も参加しており、貴重な情報交換の場となった。

2) 参加満足度について

参加者の評価では、話題提供の内容の満足度「とても満足できた」26 名(56.5%)、「まあ満足できた」18 名(39.1%)と満足度は高かったと言える。内容に関して、今後の自施設の実習運営への活用に関しては、「とても活かせる」16 名(34.8%)、まあ活かせる 26 名(56.5%)であった。自由記載からも「老年看護学を教授する上で、高齢者の強み、ニードなどへの着目、目標志向型思考を大事にしていることがわかった」「他の学校の取り組みを知ることができ、生かせることは生かしたい」などの感想が聞かれた。他校との貴重な情報交換の機会を得ることができた。

情報交換会では、様々な講義・実習の方法について共有したが、残念ながら時間が短く、実習運営に活かすためには、より詳細な情報が必要との意見もあり、今後、定期的な情報交換会の開催の必要性が示唆された。

9. まとめ

2025 年度の当委員会が企画したセミナーは、オンラインライブ形式であり、若干時間が超過した点などの反省点もある。資料等の配布なども事前に検討する必要があった。一方、他校の教員や臨床指導看護師との意見交換など、貴重な情報交換の場となった。今後は、モデル・コアカリ

キュラムの内容を踏まえたカリキュラムの組み立てや、学生に教授する際の工夫など、ディスカッションを多くした情報交換会の開催、今回と同様のテーマで、病院実習バージョン、高齢者施設実習バージョンで他大学の取り組みを共有する情報交換会を検討していきたい。さらには、本日のグループワークから、実習施設の教育担当者や実習指導者と、学校側の教員との企画によるグループワークなども検討していきたい。

以上